

第 4 回松田町文化センター複合拠点化検討協議会
議事要旨

1. 日 時 平成 29 年 12 月 21 日（水）10 時～12 時
2. 会 場 松田町役場 1 階 1AB 会議室
3. 出席者 委 員：古舘信生氏（会長）、吉田恵美子氏、木口まり子氏、武尾哲治氏、
関野敏樹氏、香川義美氏（副会長）、村野幸男氏、水田秀子氏、
今泉好夫氏、堀真記氏、遠藤洋一氏
事務局：政策推進課（吉田参事、柳澤、小野）
教育課（川崎）
ランドブレイン株式会社（田中、山内）

※以下「・」：委員意見、「→」：事務局回答

1. 開会
・吉田参事

2. 議題

- (1) 第 3 回検討協議会議事の確認

- ・資料 2 について政策推進課より説明

- 複合拠点施設のコンセプトについて議論を頂いた。施設活用の方向性について従来の機能を追加して書くこと。国際交流について、観光だけに向けるのではなく足元を固めるために、松田町の素晴らしい文化を磨き町の財産をとらえた中で在住外国人との交流を図りたい。文化センターの利用についてデータがないというご意見を頂いたので本日整理をさせて頂いた。
- 図書館については子どもコーナーが素晴らしいという意見、また、スポーツについては学校と連携してクライミングの普及を進めること、大ホールについてはテーマをどのようにもっていくのかという意見を頂いた。また、イベント誘致はあくまで手段であり、人が来るところに民間はイベントを行うという意見を頂いた。
- 国際交流について松田町が取り組んでいる状況を説明し、周知が足りないというご意見を頂いた。また、町内には民間のボルダリング施設があり、連携をどのように進めるかが課題である。施設の文化的な機能を保つだけではなく、新しい拠点としての多機能を集約し、町民が活用することが重要である。
- 運営について、持続可能性を考えていくことが必要である。指定管理者制度についても課題があり、町と民間との役割を整理する必要がある。

- (2) 松田町民文化センター複合拠点施設の活用方策（案）の検討

- ・資料 3 について政策推進課、ランドブレインより説明

- ホールの利用状況について、平成 25 年度から平成 26 年度にかけて利用が半減している。平成 25 年度までは舞台技術者を常駐させていたが、平成 26 年度からは常駐を廃止し派遣型になっている。派遣費用は利用者負担であり、利用数減少の大きな原因であると考えられる。また、平成 27 年度から平成 28 年度にかけては、雨漏りが問題化したことが影響し

ている。公民館は利活用があったとしても、収入に占める割合は少ない。

<ご意見、質問など>

- ・「未病」というキーワードについて、ネガティブな言葉であるため、「未病改善」という言葉に直して頂きたい。
- ・施設の利用件数について、平成 25 年から 26 年に利用件数が落ちているのに驚いた。平成 25 年までに舞台照明の技術士常駐から派遣へ変わり、利用者負担となることでコスト（委託費）は削減できたが、利用件数が減ったということなることで理解した。
- ・活用方策の可能性について、町の歴史文化を残し、大切にするため、郷土資料館のような掲示物のある部屋を設置することは検討されているか。
また、英会話ボランティアの活動を通じて感じていることは、「松田町はあとどんなイベントがあるの？」と聞かれた時、大名行列と答えると非常に興味を持ってくれる。語学交流だけではなく日本の文化を発信したいという意見も頂いている。そういった展示できる場所があると良いと思った。
→現状について、展示ホールの前のガラスに土器等を展示している。展示物の御意見については、今のところ新しい部屋をつくる予定はないが、これからの可能性として参考にさせて頂きたい。
- ・国際交流について、国際交流の部屋を設置する話は聞いている。そこで国際交流という部屋ではなく、町民交流室ということで日本からみたよその国の紹介コーナーもあればよいと思う。
→町民の交流という意味では、無料で使える部屋がない。また、屋外ではあるが青空広場は屋根があるので町民の交流として使っていこうという意図がある。文化の発信については、もっとアピールするための工夫は出来ないかなと考えている。個人的な意見であるが、大名行列が見えるところがあると良いと考えている。
- ・資料の通り松田に登録している団体に中国語サークルがある。外国語サークルとどういう連携が取れているか。
→中国語サークルについて、今のところ繋がりを持っていない。今後連携してみたい。
- ・飲食の問題について、日本人の文化かもしれないが、ホールでも青空広場でも館内どこでも飲食できることがはたして良いのかご検討頂きたい。例えば、青空カフェの飲食は良いと思う。ホールについて音楽会で食べてはいけないが、上映会では食べて良いのか、ルールが不明慮である。
→飲食については、格式節度をもつことも大事であるため検討していきたい。
- ・国際交流・未病改善についてはぜひ進めて行くべきである。
国際交流の考え方について、3つあり、
 - ①色々な人と仲良くすること。
 - ②松田に来ている人を大切にすること。かつて秦野でそのような団体があった。そのような団体ができ、支援できるとよい。
 - ③今ある松田町の文化を大切にすること。国際交流を打ち出しながら松田町らしいことができることを進めたい。
- ・複合拠点施設は、新たな機能、マーケティングについて整理することが必要である。4P（プロダクト、プレイス、プロモーション、プライス）という考え方がある。4Pについて念頭に置くことよと思った。

(3) 運営手法について

- ・資料3について政策推進課、ランドブレインより説明
 - 委員のご意見の通り、様々な機能や商品が増える中で有機的に連携し、外部からも注目されるという相乗効果を生むためには各役割分担および運営について更に検討していく必要がある。
 - 運営手法の検討については、4つのケースを提示している。ケース1は町直営の現状維持で運営していく場合。ケース2は町直営であるが、施設の専属職員を配属して対応する場合。ケース3はホール部分、クライミングウォール部分を民間に委託して対応する場合。ケース4は施設全体を民間に委託して対応する場合となっている。
 - ケース1では、現体制で運営が進めやすいが、町職員の管理する範囲、業務量が単純に増えることから積極的にイベント誘致等、活用方策に取り組むことが難しい。ケース2では、本事業の主旨を理解した上で能力のある人材の獲得が課題である。ケース3、4では、民間ノウハウを活用し賑わいづくりが図れる一方で、コストが大きくかかる点が懸念される。

<ご意見、質問など>

- ・個人的には、色々なイベントの企画運営に関して町民の意見が反映されることが重要ではないかと考える。日光市で指定管理を行っているが、大部分は市民の方々が集まった協議会の中で企画しており、市からあるいは国からの補助金を頂いている。補助金なしで民間が事業化できることは別の話であると思う。
- ・ケース3、ケース4の指定管理の募集をする場合、手を上げる会社の目算があるか。財団として指定管理をしていたことがあるが、競合相手は、施設へソフト事業をうってくるという内容あった。横浜市の区民センターではホール事業者が多かった。平成25年度では利用者負担となっているが、舞台関係を管理する事業者でかつ興行できる事業者等の想定はされているのか。
 - 指定管理する際は、どこか想定しているという話があるわけではない。いきなり募集するのではなく、ヒアリングすることが重要であると考え。管理をして頂くための条件について、民間事業者との整理をした上で募集していきたい。
- ・指定管理のシステムについて教えて頂きたい。
 - 指定管理について、契約関係が多岐にわたるが、基本的には、民間事業者が施設の管理運営に係る経費も含めて委託することである。収入に関しては、どこまで可能か条件を提示し運営してもらおう。しかし、収支が合わなかったり、利用が難しくなるといった危惧がある。南足柄の金太郎ホールでは、施設全体で億単位の委託料を払っていると聞いた。松田町の文化センターでは秋の土日は町の行事で埋まってしまっているため、事業者からすると手を挙げにくいのではないかと懸念される。管理委託とは、あくまで業務委託であるため、運営までは入らない。サウンディングと呼ばれるが民間事業者とのヒアリングを通じて発注内容を整理することが必要である。
 - ホールが要であるが、松田町の客席数1,000の場合利幅が少ないといわれている。一般的には1,500と言われている。
 - 収入については、会場に来てもらう利用料のお金だけでなく、物販等について取り入れることも考えられる。
- ・指定管理について、色々なケースがあると思う。私がしているところでは、施設の管理とスポーツコンテンツを持っているので業務委託料も頂いている。自主事業として、スクール事業を行っており収入を得ている。今回の場合、収入の軸としてどこになるかが懸念事項である。

- ・施設の機能について、公民館機能とホール機能が複合しているところが難しいと思う。施設一体のイベントをやりたいときに、この公民館の部屋は使えない等の対応が難しいと思い、懸念事項であると思った。どこをどこまで使えるのか、借り手側の意向を整理することが必要であると思った。
- ・指定管理について、複雑だと思った。施設の方向性として第1に町民のための拠点施設にしている。契約内容によるという意見を頂いたが、指定管理になったときに、町民のための施設として維持できることが一番の問題である。
- ・かつて利用について全館借りられる実績もあったため、施設一体のイベントについては問題ないかと思う。

(4) 情報共有、情報発信の方法に関する検討

- ・資料4について政策推進課、ランドブレインより説明
 - プロモーションの具体方策として考えられるものを整理している。活用法案やプロモーションといった視点の中で、ご意見をいただきたい。現在、来年度の予算策定を行っており、本日いただいた意見も参考にして1月には予算化をしていきたい。
 - 町民が利用しているという実績があれば、次のイベントも開催しやすい。施設が新しくなったことを情報発信する必要がある。外部からの利用により町民が利用できなくなることは避けたいので、運営協議会で協議する必要がある。
 - 定期的なイベントを開催し、賑わいを作ることが重要である。ホール等の改修は今年度で終了するため、新年度にオープニングイベントを行い施設のお披露目をする。情報発信について、上野博物館の若冲展では待ち時間など情報が常にtwitterに流れることで認知度も上がり、利便性も向上にもつながった。

(5) その他

- 次回以降について、町の予算、工事の動きがあるため、頂いた意見をもとに町の方向性を示したいと思う。2月下旬～3月上旬にご案内させて頂きたいと思う。
- 本日の活用方策部分について整理。運営手法についてはケース1～3と考えており、町としての結論を出したいと思う。
- 施設のコンセプトについて、指定管理を受けている事業者さんがいると思う。指定管理を受けた場合、企業としてこのような効果があったという評価を頂きたい。

以上